

観V&Cリスト

日出彦

2003.9~12

暫くお休みしている内にも、V&Cは結構観ています。

【ザ・ラスト・サムライ】(C)

ご存知トム・クルーズ主演のスペクタクルです（とっていいのかな）。何しろ長い2時間40分。でも色っぽい場面なし。小雪の扮する「たか」が髪を洗っている場面くらいだが、色っぽくはありません。つまり、明治初期の世界ですから、日本人はつつましくてプラトニックなの。トリッキーな殺陣もなし。何故か忍者が出てくるのがご愛嬌。主人公は日本政府に雇われて西部から横浜に着任。横浜から見える富士の大きいこと。まさに北斎の世界の日本！ 天皇に会う場所も御所とは思えない。神社で接見かな。大きい鳥居がある。鳥居はあちこちの場面で出てくる！ 時代は1877年からの足掛け2年間なので、現実史は西南戦争のときで、渡辺謙扮する侍は西郷がモデルか。でも、場所は吉野と言っていた。富士山、鳥居、みかど、侍、日本刀、切腹、忍者、さくら。そう、これは西洋人が憧れた浮世絵の世界の日本に紛れ込んだアメリカ人の物語。小雪の憂い顔というか般若顔も大した演技もないけれど印象に残る。

☆☆☆☆



【マトリックス・リボリューションズ】(C)

これが最後だそうですが、人類の敵であった機械があんなに簡単に妥協するなんて！ リローテッドあたりから会話がいやに哲学的になっていたのはこのためだったのか？ この解決ならもっと早く（リローテッドあたりで）平和が来たのではと思うのは小生だけでしょうか？ 特撮に金を掛けているのは評価しますが、いつの間にか、クライマックスが悪役スミスとの対決にすりかわっているなんて。☆☆☆



【キル・ビル】 (C)

これは劇画ですね。R指定というのはバイオレンスのためです。色っぽい場面はありません。いわゆる復讐譚なのですが、ド派手なアクションで、超人的な主人公です。クライマックスの戦いは新撰組の池田屋騒動×10の感覚です。タランティーノの日本かぶれは東映の任侠物ですね。冒頭に深作欣二監督へのオマージュがありますね。梶芽衣子の恨み節がエンディングに流れるので、邦画と間違える人もいる？（いや、いませんね）ルーシー・リューが悪役なのですが、主人公を食っています。最後の雪の決闘場面は白い着物で格好よい。TVではたぶん放映されません（深夜は別）ので、見たい人は今観に行くか、ビデオを借りましょう。☆☆☆★



【G@ME】 (C) これはトリックの仲間由紀江の映画なので観に行きました。実は今年の省エネポスターをゲットし、研究室のドアに貼ってあるほどのファン（みゆきさんごめん！）なのです。ちなみに昨年の夏のポスターは国仲涼子でした。これはISO事務局室に貼ってあります。それで、これは2転3転するトリックストーリーで結末は途中で予測できたけど、結構楽しめました。☆☆☆



今月はこのくらいで。Vの方は結構観ているのですが、後から後からで忘れちゃいます。同じビデオを何回も借りて、あれっということが多いのです。